



南京事件研究、「日中戦争全史」著者が語る

# 「日本は中国で何をしたか」

講師 笠原十九司 氏（都留文科大学名誉教授）

講師プロフィール 笠原十九司（かさはら とくし）  
 1944年群馬県生まれ。都留文科大学名誉教授。東京教育大学大学院修士課程中退。学術博士（東京大学）。  
 専門は中国近現代史、日中関係史、東アジア国際関係史。主な著書 「南京事件」（岩波新書、1997年）、「南京難民区の百日一虐殺を見た外国人」（岩波現代文庫、2005年）、「日本軍の治安戦—日中戦争の実相」（岩波書店、2010年）「海軍の日中戦争」（平凡社、2015年）「日中戦争全史（上・下）」（高文研、2017年）「増補 南京事件論争史」（平凡社ライブラリー、2018年12月）

日時 8月25日（日）14：00～

（ 13：30 受付開始 16：30 終了予定 ）  
講演後パネルディスカッション予定、フロアからの質疑応答

会場 エルおおさか南館 5階ホール

●京阪・地下鉄「天満橋」西へ300m、「北浜」東へ500m  
（大阪市中央区北浜東3-14）

参加費 1000円

**講演会にぜひともお越しください** 2019年度の日中不再戦月間（7月～9月）企画として、南京事件研究で名高い、笠原十九司先生をお招きして日中戦争全史をもとに、日本の侵略と加害の歴史を学ぶ講演会を企画しました。

従来の歴史書であまり紹介されてこなかった史実や、近著「増補 南京事件論争史」にも触れて講演いただきます。当時の状況が現在の安倍政権の戦争への道と似ているかを知り、中国への加害行為を反省し、日中不再戦、平和運動をすすめていくうえで絶好の機会です。フロアからの質疑応答なども予定しています。みなさんに来場していただきたく、ご案内申し上げます。



会場案内図

主催 日中友好協会大阪府連合会 大阪市北区芝田2-3-19 東洋ビル207号 06-6372-8131 info@jcfaosaka.org